



# 仏法領 ぶつぽうりよう

第93号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

「みおくる」

あなたは、いつも笑みを浮かべながら「また、お出でください」と見送ってくださいましたね。

母と同世代で、会うたびに「お母さんは、どうしますか」と気にかけてくださいましたね。

子ども連れて、お寺に遊びに行くと「ちょっと、待つてね」と言いお菓子を沢山持たせてくれましたね。

私が幼い頃は、お寺は遊び場の一つだった。騒いでいる私達を見て、文句一つ言わずにおやつを出してくれましたね。

いつも、優しい笑顔でお寺から、見送ってくれましたね。

そんなあなたを「みおくる」のはとても、さみしく、かなしい。

あなたから、「みおくる」の色々な意味を教わった気がします。

これから、あなたのように優しく、大きなこころでみおくれるように私もなりたい。

前坊守・悦美さんにささげる  
(写真・文 大迫光造)

## 前坊守追悼号



後に生まれた人は

前の人を訪え (たずねよ)



今回の寺報は、前坊守・悦美の追悼号としてテーマを「見送る」にしました。ただし「見送る」は葬送儀礼だけでなく、客の見送り、一般的見送りまで視野に入れています。

昔の人は客人が見えなくなるまで、表<sup>おもて</sup>に出でその行き先を案じて見送ったといいます。見送る側の都合、利用できるか否かで人をみるのでなく、他者の存在をもつと深いところで受け止めていたのでしょう。合掌しつつ見送る世界を頂いていたのでしよう。

近年は相手を自分の自我感情を中心にして受け止める傾向が強くなつたように思われます。それは結局、自分自身をも浅いところでしか受け<sup>と</sup>ることが出来ないということでしょうか。我々は仏<sup>おと</sup>在さぬ時代社会を生きているのだと感じます。

法然上人は『安樂集』(道<sup>どう</sup>綽<sup>しやく</sup>)を引用して、

我々は遠く久しい昔から多くの仏に出あつてきましたが、死る。なのにどうしていまだ生まれ変わり死に変わりして迷いの世界を出ることができるのかと述べます。わたしが今、ここに生きているということは、それほどはるか深い迷いの生存を生きているということなのだという存在を見る視点の深さを教えられます。

この迷いの生存からの離脱を懸命に求めてきたのでしょうか。求道者のナマの声が聞こえる思いがします。

迷い重き私だからこそ、見捨てる事なく必ず救うという、阿弥陀の誓い願いに見守られる存在としての自身を教えてきたのがお念佛の教えです。そこから自他の存在を深く見つめ、客が見えなくなるまで見送ることが私たちの生活にまで浸透して習慣化してきたのかも知れません。

「前を訪え」という冒頭にあげた言葉は、親鸞聖人が引用した言葉です。弔<sup>とも</sup>うということも先人を訪ねること、生き様に学ぶことなど教えられています。自分がここに在ること、存在の源を訪ねることなのでしょう。



5/23 密葬

5/23 還骨勤行

**念信寺 前坊守 漢水院釋尼衆悦 俗名村上悦美 儀**

八月二十一日午前三時 行年九十一歳を以て往生の素懐を遂げました。門信徒有縁の皆さまには大変お世話をになりました。

●住職・責役・総代協議のうえ本葬儀を以下のように執り行わさせていただきます

**●本葬儀**

十月五日（木）午後二時より  
念信寺本堂にて

なお  
密葬はリ二十三日午前九時より  
いずれも念信寺本堂で相務めました

通夜は八月二十二日午後八時  
亡くなられた事に対する悲しみと、この世での感謝とお別れを込めて、あの世への旅立ちを

「見送る」という事ではないだろうか。

以前、寺報『仏法領』の中で、従兄の死について寄稿した事がある。葬儀での最後のお別れの時に、親族達が彼の棺に寄り添い、「有難う」と言つていた事を思い出す。各人の「有難う」の気持ちは異なっていても、感謝の気持ちで別れを告げる事が「死者への眞の見送る」と言う事ではないだろうか。

他方、現世で毎日を過ごしている人々への「見送る」について考えてみたい。

目上の人、親しい人、家族等との別れを惜しむ、再会を願う、帰路の無事を願う等の気持ちを込めて相手を見送る事も、「見送る」と言う事であろうと思う。

死者とのお見送り、現世の人とのお見送りも、見送る一人一人がそれぞれの相手を思う気持ちで行うもので、人々の気持ちをこめた同じ行いではないかと思う。



妙見山 念信寺  
住職  
責役・総代  
世話人一同

●第3回検討委員会  
【9月10日(日)】  
提出された2業者の見積もりについて検討。

●第2回検討委員会  
【8月27日(日)】



●第1回検討委員会  
【7月16日(日)】

検討委員会は、ブロック代表6名に住職・坊守・責役・総代の計12名

木井谷【OH】、犀川谷【MY】、上高屋【MT】、

木井谷【OT】、犀川谷【MM】、上高屋【TT】

●皆作世話人会議  
【6月18日(日)】  
3ブロック2名ずつ検討委員を選出することになり、以下の方に各ブロック代表として了承いただいた。

本堂大屋根修復 会議状況

Y A (北九州市小倉北区)

O T (長崎市)

念信寺前坊守様が命終なされたとの事、心よりお悔やみ申し上げます。前ご住職と前坊守様は私の父とは大変親しくして頂き、父の亡き後も、多くの事でご指導・お教えを頂いた事を忘れ事は出来ません。

親しき人、身近な人が亡くなられた時に、「お見送りをする」と言ふ。亡くなられた事に対する悲しみと、この世での感謝とお別れを込めて、あの世への旅立ちを

今思えば、この子供会のおかげで法要の場などでそれなりの振る舞いができる、また浄土真宗の教えにも同世代の方に比べると詳しくなれ、そういう意味でとても有意義なものでした。当時の私にとってはおばあちゃんが振る舞ってくれるお菓子が一番の楽しみでした。そしていつもニコニコと子供たちの話を聞いてくださるとても優しい方でした。子どもの頃おしゃべりが苦手だった私の話もちゃんと聞いてくださったことを覚えています。

最後にお会いできたのは、3年前、長女が7歳、次女が3歳となり、七五三を念信寺さんにお願いした時でした。お会いするのは本当に久しぶりでした。が、以前と全く変わらず、穏やかな笑顔で優しく出迎えてくださいました。その時もとてもお元気そうでしたので、突然のご訃報を聞き悲しい気持ちでいっぱいです。謹んでお悔やみ申上げます。



後堂屋根、波打っている

波打ち瓦ずれ

見送るとは・・・

子供会の思い出



# 秋のお彼岸法要ご案内



今夏は今まで経験したことのない記録的猛暑でした。朝夕は涼しくなりましたが、日中は蒸し暑い日が続いています。皆さまいかがお過ごしですか？さて、秋のお彼岸法要を左記のよう勤めます。今回も距離をとつて座れるように、地区ごとに振り分けておりますので、できれば表の左下の日にお参りくださるようにお願い致します。当日のご都合が悪い場合はいずれの日でも構いません。

※マスクの着用をお願いします。  
お茶は各自ご持参ください。

一、日時 九月三十日（土）、十月一日（日）の二日間  
記

一、講師 瓜生 崇先生  
滋賀県東近江市 玄照寺住職  
響流書房代表  
浄土真宗の法話案内運営製作（ウエブサイト）



期日	法座	昼席	地区ごとのお参り予定お願い
9月30日（土）	午後1時30分		伊良原・横瀬・上木井・下木井・犬丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※
10月1日（日）	午後1時30分	区※	上本庄・鎧畠・上高屋・他地
			※他地区とは、豊津・篠上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

- マスクの着用をお願いします。●お茶は各自ご持参ください。
- 法座は2日間午後ののみです。●出来れば地区指定の日にお参りください。
- 本堂の椅子は余裕をもって配置し、換気を努めます。●体調の不安がある場合は「遠慮ください」。

## 法座予定

二〇二三年

●バ正忌・報恩講  
十一月二十一日（火）  
22・23日寺本温  
～二十三日（木）  
講師

21日加来哲也 明秀寺住職  
三月二十三日（土）、二十四日（日）  
舟川智也・筑前町光蓮寺住職

### 二〇二四年

22・23日寺本温  
四日市別院輪番

①本年度の本山納金は4,000円。秋彼岸に納めていただくことになりました。宜しくお願ひ致します。

②各ブロック2名ずつ検討委員を選出することにして、この日に各ブロックの委員が決まりました。

秋彼岸に納めていただくことになりました。宜しくお願ひ致します。

## 決定事項

## 秋のお彼岸法要ご案内



## 世話人会議報告



出席者

2023年6月18日（日）  
午後1時半～13時15分

責役・総代4名、世話人16名

①本山屋根工事について



6/20京都組教化委員会、商工会議所



6/12京都組幹事会、浄喜寺

## お寺の活動



6/14女性門徒役員会、善徳寺

7/11犀川女性門徒の会、龍王寺



7/26読書会

### あとがき

今回、前坊守 悅美の追悼号で原稿を依頼してわかつたことは、皆さんが坊守をどのように呼んだらよいのかの呼称と人の死にどのような言葉を使うかの問題にとまどつておられるということでした。母の場合、基本的に「奥さん」と呼ばれていました。しかし若い人は「おばちゃん」「おばあちゃん」と言います。呼び名は関係により変わっていきます。

人の死に対しては、一般的な慣用句として「冥福をお祈りします」が使われます。しかし、「冥福」とは冥土の幸福という意味で、「亡くなることは冥土」という冥い世界に行くことだという意味なので、浄土真宗では使いません。亡くなることは、分別・迷いの世界から浄土という本来、一如の世界に帰ることだと考えるからです。浄土真宗の言葉、例えば「浄土往生」が床の間に飾られていて生活の言葉として使われていない。それは人の死をどのように受けとめるのかが、はつきりしていない



8/14お盆で久しぶりに！



7/28浄真寺掃除おみがき



28日日講



8/16盆踊り



8/7組会、真念寺

